

夏休みになにする？

図書館広報誌「まめリブ」が創刊しました♪

本に関するトピックや図書館のことなどを紹介していきます。

創刊号は、夏休みになにする？号です。長い夏休みに「ゼロ年代の50冊」からお気に入りの1冊を見つけてみませんか？

オススメは、第7位の『木村蒨葎(けんか)堂のサロン』。江戸時代の読書人サロンを紹介したものです。夏休みに、お茶をしながら、友達と一緒に読書サロンを優雅に開くなんて、ステキだと思いませんか？図書館でも、本についてお話できる場をつくっていきたくてこっそり考えていたりします。

千田先生には「ゼロ年代の50冊」にもランクインした村上春樹をとりあげてもらいました。村上春樹を読んだことがある人もない人も、この機会にぜひどうぞ☆

お知らせ

図書館のデジタルアーカイブ

“学びと遊びの歴史”がオープンしました。

<https://library.u-gakugei.ac.jp/>

[digitalarchive/archivetop.html](https://library.u-gakugei.ac.jp/digitalarchive/archivetop.html)

図書館のHpからもリンクしてあります☺

江戸時代からの学びと遊びの世界をのぞいてみませんか？

図書館開館カレンダー

7月						
月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

8月						
月	火	水	木	金	土	日
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	休	休	休	休	休
休	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

太字(土日休日):10:00~17:00 ■(平日休業日): 8:30~17:00

○(7/19): 8:30~18:30

休:休館日

東京学芸大学附属図書館
平成22年7月1日発行

library@u-gakugei.ac.jp

村上春樹を読む冒険 千田 洋幸

『1Q84』が大ベストセラーとなり、いまや村上春樹の名を知らない人はまず存在しない、といえるほどの状況となっています。日本人の大部分が名前を知っている文学者など、そう大勢いるわけでもなく、その多くは夏目漱石、芥川龍之介、太宰治など、国語の教科書で出会うような古典的作家に限られています。村上春樹は、私たちの同時代人でありながら、「国民的」な——この言葉が適当であるかはともかくとして——作家となった、稀有な例といえるかもしれません。

村上春樹作品の何が、多くの読者を魅了するのでしょうか。一九七〇年代の喪失の風景を、さまざまな構造の仕掛けと卓越したストーリーテリングにより、虚構(ヴァーチャル)の時代にふさわしく物語化した『風の歌を聴け』『1973年のピン

ボール』『羊をめぐる冒険』の初期三部作。トラウマを深く抱えこんだ恋愛とセックスと死を描き、心理学ブームときびすを接するようにベストセラーとなっていった『ノルウェイの森』。歴史とアクチュアルに関わる姿勢を作者が明示しはじめた、いわゆる「コミットメント」への転換以後の『ねじまき鳥クロニクル』『アンダーグラウンド』『海辺のカフカ』。それらの作品は、しばしば独特の寓話性と解釈不能の謎に満ち、現実から遊離した物語世界を形成しているようでありながら、実は、その時々の変化とひたひた寄り添っているという点において、共通しているのです。このことが村上作品の隠れた特質であり、同時代の読者の知的欲望、文学的欲望をたえず誘ってやまない理由のひとつでもあるのでしょうか。

村上春樹に関しては、称賛を惜しまない批評家がいる一方、「自己」への内閉を語っているにすぎないという批判も存在するなど、毀誉褒貶のはげしい批評や研究が変わらず生産されつづけています。このような、批評の量産という事態も含め、村上春樹は、文学の世界にとどまらず、現代文化の最前線に否応なく押し出されてきています。影響力という点でも、たとえベストセラー作家の伊坂幸太郎など、村上春樹の痕跡が色濃く感じられる小説家は数多く存在しますし、アニメーション作家の新海誠や漫画家の西島大介なども、村上春樹への意識を公言しています。『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』のパラレルワールドの構造は、ゲームの世界に影響を与えたともいわれています。いまや村上春樹は、文学からサブカルチャーに至るさまざまな文化ジャンルの中心に位置し、その世界を波紋のように広げているのです。

村上春樹の作品を読むことは、単にその独特の物語世界を楽しむにとどまらず、現代文化が作り出しているカオスに接近していくこと——すなわち、この時代の文化や社会の複雑さそのものと出会っていく体験でもあるといえるでしょう。そういう作家を持ち得たのは、我々にとって幸運なことです。まだ未読という人も、ぜひ一度、村上春樹作品を読み解く冒険に浸ってみたいと思います。

千田先生オススメの村上春樹作品

○『1973年のピンボール』【913.6/MUR】

村上春樹作品にまずは軟着陸したいという人に。彼の原点ともいえる物語世界が展開されています。

○『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』【913.6/MUR】

初期の代表作。最高傑作として推す人も多いでしょう。

○『ノルウェイの森』【913.6/MUR】

村上春樹独自の恋愛世界にハマりたいなら、これを。

○『海辺のカフカ』【913.6/MUR】

『ねじまき鳥クロニクル』以降、謎が放置されたまま物語が進行する傾向が、そう強くなっています。それだけに、色々な想像力を動員することが可能な作品。

もうすこし詳しく知りたい人は・・・裏面にガイドブックがあるよ～

●千田洋幸【本学人文社会科学系日本語・日本文学研究講座 教授】

朝日新聞「ゼロ年代の50冊」を夏休みに読んでみよう

朝日新聞の「ゼロ年代の50冊」から図書館にある本をピックアップしてみました。

「ゼロ年代の50冊」とは…識者151人へのアンケートによる2000年から2009年の10年間に出版された本のベスト50冊。夏休みの読書にオススメです。

読んだ本をチェック☑してね♪

[]内は図書館の請求記号です。

朝日新聞 2010年4月4日掲載

1. 銃・病原菌・鉄



ジャレド・ダイアモンド著
倉骨彰訳
草思社, 2000.10
【361.3/D71】

2. 海辺のカフカ



村上春樹 [著]
新潮社, 2002.9
【913.6/MAC】

3. 告白



町田康著
中央公論社
2005.3
【913.6/MAC】

4. 磁力と重力の発見 【423.02/YAM】

山本義隆著 みすず書房, 2003

5. 遠い崖 【289/Sa87H】

萩原延壽著 朝日新聞出版 80.98-01

6. 博士の愛した数式 【913.6/OGA】

小川洋子著 新潮社, 2003

7. 木村兼蔵堂のサロン 【289.1/KI39/N】

中村真一郎著 新潮社, 2000

8. 東京骨灰紀行 【915.6/OZA】

小沢信男著 新潮社, 2009

9. 孤独なボウリング 【363.3/PUT】

ロバート・D・パットナム著 柏書房, 2006

10. トランスクリティーク 【134.2/Ka63】

柄谷行人著 批評空間, 2001

釋迦空ノート 【911.16/O71/A4T】

富岡多恵子著 岩波書店, 2000

シズコさん 【913.6/SAN】

佐野洋子著 新潮社, 2008

カラマーゾフの兄弟 【983/DOS】

ドストエフスキー著 光文社, 2006-07

本格小説 【913.6/MIZ】

水村美苗著 新潮社, 2002.9

江戸演劇史 【772.1/WAT】

渡辺保著 講談社, 2009.7

敗北を抱きしめて 【210.762/DOW】

ジョン・ダワー著 岩波書店, 2001

アースダイバー 【213.6/NAK】

中沢新一著 講談社, 2005

ナショナリズムの由来 【311.3/OSA】

大澤真幸著 講談社, 2007

1968 【377.96/OGU】

小熊英二著 新曜社, 2009

「格差」の戦後史 【361.8/HAS】

橋本健二著 河出書房新社, 2009

輝く日の宮 【913.6/MAR】

丸谷才一著 講談社, 2003

ブーバーとショーレム 【199/UEY】

上山安敏著 岩波書店, 2009

滝山コミュニティー九七四 【372.107/HAR】

原武史著 講談社, 2007

悪人 【913.6/YOS】

吉田修一著 朝日新聞出版, 2007

東西／南北考 【381.1/A32】

赤坂憲雄著 岩波書店, 2000

道元禅師 【913.6/TAT】

立松和平著 東京書籍, 2007

寺山修司・遊戯の人 【913.6/SUG】

杉山正樹著 新潮社, 2000

日本語が亡びるとき 【810.4/MIZ】

水村美苗著 筑摩書房, 2008

建築家 安藤忠雄 【523.1/AND】

安藤忠雄著 新潮社, 2008

神は妄想である 【161/DAW】

リチャード・ドーキンス著 早川書房, 2007

廣松渉 近代の超克 【121.6/KOB】

小林敏明著 講談社, 2007

マオ 誰も知らなかった毛沢東【289.2/CHA】

ユン・チアンほか著 講談社, 2005

Booklog では、全 50 冊を紹介中。

コメントも募集中

<http://booklog.jp/users/gakugeilib>



→千田先生より【ガイドブック——もう少し詳しく村上春樹を知りたい人に】

○清水良典『村上春樹はくせになる』(朝日新書 2006年) ○柴田元幸・四方田犬彦他『世界は村上春樹をどう読むか』(文春文庫 2006年)

○『村上春樹がわかる。』(アエラムック 2002年) ○『群像日本の作家 村上春樹』(小学館 1997年) …4冊とも手配中です。入荷までお待ちください